

2006年3月6日(月) 14:00~17:00

分科会 2C

インフラストラクチャーのギャップ / Closing the Infrastructure Gap

- ・ 司会進行： 黒田 ADB 総裁
- ・ プレゼンテーション： Jeff Gutman 氏（世銀 東アジア地域副総裁代行）
- ・ Gutman 氏による論点の提示、パネリストからのコメントに続いて、参加者を交えた質疑応答・議論が行われた。なお、パネリストとして、日本（JBIC 荒川専任審議役）、WTO、バングラデシュ計画委員会、民間企業（ICIC Bank）の代表が参加。
- ・ 冒頭プレゼンテーションの論点
 - アジアは他地域と比較してインフラ整備度は高いといわれるが、貧困層の数は多くインフラ充足のニーズは依然として高い。同時に、東アジアと南アジアとではインフラに対するニーズが異なる点にも留意。
 - アジア途上国においても地方分権化が進んできており、インフラ計画策定において政府が果たす役割は縮小しつつある。他方、民活インフラを推進する場合でも、民間セクターは中央政府に対して規制の枠組みの整備など一定の役割を期待している。政府の調整機能のあり方は如何に。
 - 情報公開の進展により、インフラ事業の計画・実施に取り組む際に説明責任の強化が求められている（例えば、汚職問題）。
- ・ 議論のポイント
 - 1990年代は社会セクター偏重・インフラ軽視の傾向があったが、近年は貧困層のサービスデリバリーのためにもインフラ投資が重要である点が再認識されるようになった。ただし、「インフラ回帰」と言われる中で、地方分権化や貧困層を包摂する必要性への配慮など、新しい要素を取り込む必要あり。
 - インフラ投資については費用面に関心が集まりがちだが、それがもたらす恩恵についても理解を深める必要あり。
 - インフラの種類により、人々の料金負担の意識が異なる（電話・通信料金の負担は当然視されているが、電力料金の負担意識は低い。よって、インフラ・サービスから得ている恩恵、それに伴う費用についての人々の認識を高める必要がある。インフラ投資費用と料金負担について開かれた議論を行っていく必要あり。
 - インフラ整備がもたらし得る社会的にネガティブな側面を認識し、影響を受ける人々の声を聞くことが重要。
 - インフラの種類は、都市と地方、電力、通信、衛生など多様である。従って、インフラの種類ごとに適切な規制の枠組を作る必要があり、またその際に経済・政治的側面の双方を勘案して設計しなければならない。
 - 都市のインフラ整備は住民移転や社会補償など複雑な側面を考慮する必要があるが、これに対しては複合的アプローチ（プログラム型アプローチ）が有効たりえる。
 - 民活インフラを推進において、官と民のリスク負担についての単純明快な回答はなく、国とセクター（種類）によって検討する必要あり。また、地方分権化がもたらす課題もある。

以上

2006年3月7日(月) 10:00~12:15

分科会 3C

ガバナンスと国家の有効性の強化 / Asian-led Strategies for Improving Governance and the Effectiveness of State Institutions

- ・ 司会進行： Shekar Gupta 氏 (Indian Express 編集長)
- ・ プレゼンテーション： Zillur Rahman 氏 (Director of Power and Participation Research Centre, Bangladesh)
- ・ Rahman 氏からの論点の提示に続いて参加者との質疑応答があり、パネリストを交えて議論が行われた。なお、パネリストとしてパキスタン(国家復興局)、中国(ジャーナリスト)、ベトナム(国会議員)、インドネシア(ガバナンス改革担当)、ADBの代表が参加。
- ・ 冒頭プレゼンテーションの論点
 - ガバナンスをとらえる視点の多様性(政策決定者、ビジネス・外資、貧困層・市民)、これに伴うガバナンス指標の多様性(政策の安定性といった上位レベルから、声、参加の機会といった草の根レベルの基準まで)
 - 今までの経験からの教訓として、ガバナンス強化のためのアプローチの多様性(東アジアの中央集権型 vs. 南アジアの分散型)、局所的であっても、漸進的にガバナンス改革の成功例を積み重ねる重要性、政策のみならず規範化される必要性、など。
 - ガバナンス強化のための適切なエントリーポイントを見出すことが必要(財政管理、組織の質向上のための施策、地方レベルのガバナンス、政治を含めたシステム構築、局所的でも着実な解決方法を見つけること、など)
- ・ 議論のポイント
 - アジアの多様性： 東アジアと南アジアの違い(民主制度の定着度、植民地経験が制度構築に及ぼす影響の相違など)。例えば、ベトナムや中国は未だに一党独裁だが当局は国民にデリバリーすることの重要性を認識している。
 - 民主主義の功罪： 民主主義はポピュリズムに陥るジレンマをもち、民主主義は政策決定の質を必ずしも保証するものではないのではないか。
 - ガバナンス改革においては、小規模でも成功例を積み重ねていくことが重要。同時に個別アプローチだけでは既存システムをバイパスした局所的な成功にとどまるので、最終的にはシステム構築が重要になる。
 - ガバナンス改革には途上国側に時間的な猶予をもたせることが必要。
 - リーダーシップの役割： 貧困層に配慮した施策の立案・実施能力を含めて、リーダーシップにガバナンス強化を誘発させる要因には何があるか。
 - 近年の国際潮流は社会セクターへの投資を奨励する傾向にあるが、投資が財務管理や政策・制度といった中核のガバナンスとリンクされるよう、包括的な取組みが必要。
 - ガバナンスを考える際には、植民地経験を含め当該国の歴史的、制度的セットアップ、価値観なども考慮する必要がある。フォーマル・インフォーマルな制度を見ていくことが重要。
 - 当該国のオーナーシップがなければ外部アクターとのパートナーシップや国際統合プロセスは有効たりえない。
 - ガバナンス強化におけるメディアの役割、また援助を含む外部アクターの役割は如何に。

以上